

A 表現（器楽）ア、イ（ア）（イ）、ウ（ア）				
音楽Ⅰワークシート	曲の特徴を生かして リコーダーで演奏しよう		教科書 『MOUSA 1』	P.62 リコーダー P.64 天国と地獄、C-a-f-f-e-e
	氏名			評価

① 「リコーダー」（教P.62）を読み、次の問いに答えよう。

1) リコーダーについて、次の文章を完成させよう。【知】

リコーダーは、（ ）各地で古くから演奏されており、16世紀頃には、独奏や（ ）、歌や踊りの（ ）などで盛んに用いられるようになった。17世紀の後半には現在のようなジョイント（継ぎ目）のある形に改良され、（ ）の調整が可能となり（ ）も広がった。

2) チューニングについての次の文章を完成させ、実際にチューニングを行おう。【知】

基準とする音を鍵盤楽器などで鳴らし、それにピッチを合わせる。ピッチの調整は管の（ ）を変えることによって行う。リコーダーは楽器が温まるとピッチが（ ）なるので、演奏の前にはあらかじめ手や息で楽器を温めておく。息で温める際は、（ ）の部分を手のひらで覆って、静かに息を入れる。

3) サミングについての次の文章を完成させ、実際にサミングを行おう。【知】

サミングとは、左手親指の先で（ ）にわずかな（ ）をつくる運指のことで、（ ）を演奏する際に用いる。サミングには、親指を少し曲げて（ ）をつくる方法と、親指を下へずらす方法がある。

② リコーダーを演奏しよう。【主】

1) リコーダーの奏法の動画（教P.62 二次元コード）を視聴しよう。

2) 「タンギング」（教P.63）を読み、基準とする音で下の譜例を参照しながら「tu」と「du」の発音を用いたタンギングで演奏して、それぞれの音の違いを感じてみよう。



（教P.62 運指表参照）



3) 「アーティキュレーション」（教P.63）を読み、①スタッカート奏法、②ノン・レガート奏法、③ポルタート奏法、④レガート奏法の4つの奏法で演奏しよう。

③ 《天国と地獄》（教P.64）を演奏しよう。

1) 次の文章を完成させよう。【知】

日本で《天国と地獄》のタイトルで知られている旋律は、（ ）が作曲したオペレッタ《（ ）》の序曲からのものである。この旋律は、サン＝サーンス作曲の組曲《動物の謝肉祭》の第4曲《（ ）》に用いられている。

2) 曲の特徴を生かして、《天国と地獄》を演奏しよう。【技／思・判・表／主】

3) 演奏した感想や、演奏するときに気を付けたことや工夫したこととその理由を書こう。【思・判・表／主】

④ 《C-a-f-f-e-e》（教P.64）を演奏しよう。

1) 次の文章を完成させよう。【知】

《C-a-f-f-e-e》は、（ ）の作曲で、“Caffee”のつづりをそのまま音名に見立てた「ド・（ ）・ファ・ファ・ミ・ミ」で始まる。「コーヒー・（ ）」という愛称でも知られる。

2) 曲の特徴を生かして、《C-a-f-f-e-e》を演奏しよう。【技／思・判・表／主】

3) 2つまたは3つのパートに分かれて輪奏しよう。【技／思・判・表／主】

4) 演奏した感想や、演奏するときに気を付けたことや工夫したこととその理由を書こう。【思・判・表／主】